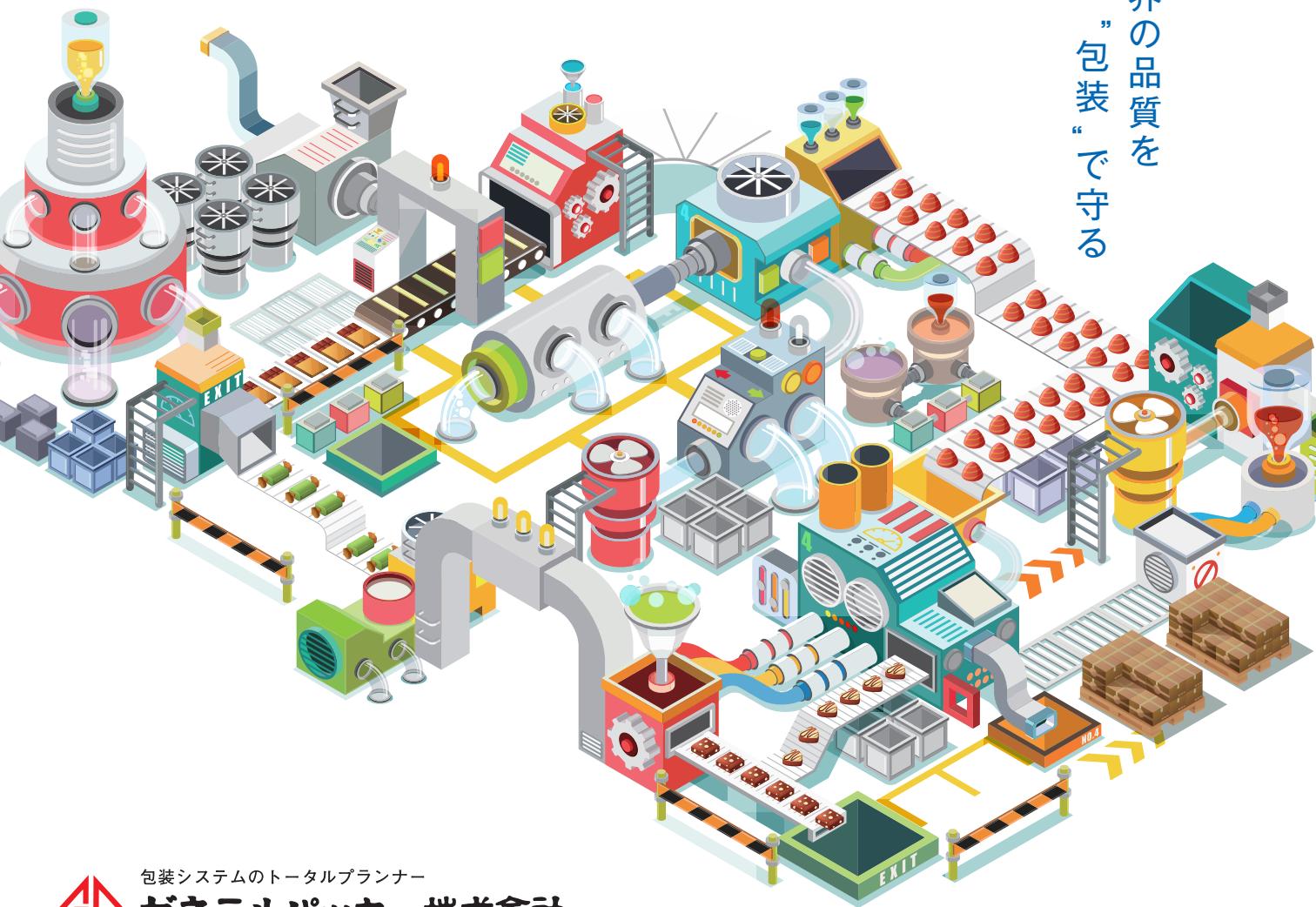


INVESTORS' GUIDE

ゼネラルパッカー通信 2024年7月期(第63期) [2023.08.01→2024.07.31]

世界の品質を
”包装”で守る



社是 **創造と挑戦** — 感ずる、信ずる、行動する —

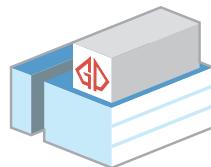
経営理念 わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。

GOTグループ



当社



包装機械

各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売

- ・当社主力の包装技術
- ・ガス充填包装
- ・チャック付スタンドパウチ包装

生産機械

食品製菓機械の製造・販売

オサ機械株式会社



Since 1932

魅力1 卓越した技術力

魅力2 優れた人材

新たな包装技術の創出を進めつつ、汎用性の高い製造技術を蓄積。また、全従業員のうち1/3が開発部及び技術部に所属、トータル人事システムに基づき、業界認定によるスペシャリストを育成しています。

魅力3 既存分野での高いシェア

小麦粉、かつおパック、かち割り氷など、多くの分野でのトップシェア獲得が安定した収益基盤につながっており、当社は上場以来赤字がありません。また、オサ機械はチョコレート製造機械分野で高いシェアを誇っています。

魅力4 新規分野・海外分野への成長

新規分野の開拓による事業領域の拡大と海外市場での成長を続けています。

魅力5 安定した株主還元

連結配当性向30%または連結純資産配当率(DOE)3%を目安に、安定配当を続けています。

▶P4へ

当社グループのお客様

主要ユーザー

工場



食品分野

化学分野

医薬品分野

その他

店舗



- ・スーパーマーケット
- ・コンビニエンスストア
- ・ドラッグストア
- ・ホームセンター等

病院



食品分野

- キャンディ
- パン粉
- 花かつお
- ふりかけ
- ナッツ類
- 小麦粉
- お茶
- かち割り氷
- お米・米菓
- ドリップコーヒー
- チョコレート
- 健康食品

化学分野

- 粉末洗剤
- 肥料

その他

- ペットフード
- 野菜・花の種

医薬品分野

- 輸液パック
- カテーテル
- 粉末薬品



第7次中期経営計画達成に向けて
飛躍的成長に向けた
グローバル展開の加速と
事業領域の拡大を
目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ここに当社第63期(2023年8月1日から2024年7月31日まで)の営業状況をご報告させていただきます。
ご一読の上、当社事業へのご理解とともに、今後の成長に一層ご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **牧野 研二**

2024年7月期の決算概況

2024年7月期決算は、売上高9,853百万円(前期比8.8%増)、営業利益1,000百万円(前期比7.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益721百万円(前期比8.4%増)となりました。売上高は業績予想数値、前期実績とともに上回り、過去最高の売上高となりました。

一方で利益につきましても、原材料・エネルギー価格の高騰に伴う仕入価格の上昇により売上総利益率が前連結会計年度を下回ったものの、増収効果により営業利益、経常利益、親会社

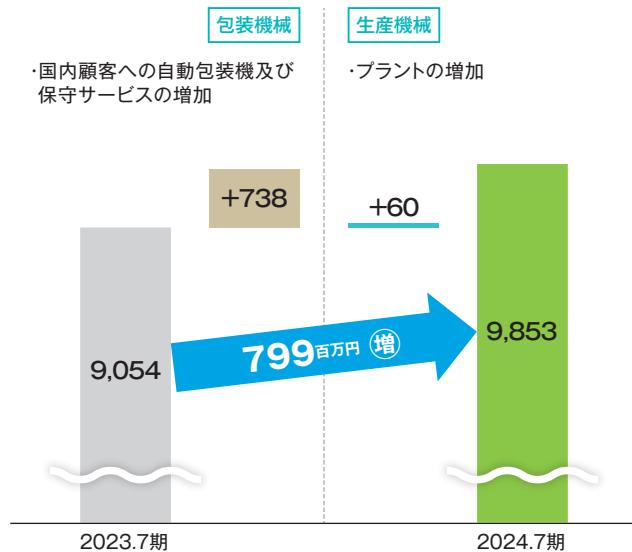
株主に帰属する当期純利益いずれも前期に比べ、増益となりました。

全体の売上高は799百万円の増収となりました。事業別の主な要因ですが、包装機械事業では、国内顧客への自動包装機及び保守サービスの販売実績が増加したことにより、738百万円の増収となりました。生産機械事業では、プラントの販売実績が増加したことに伴い60百万円の増収となりました。

営業利益は69百万円の増益となりました。主な要因としては増収による効果であり、包装機械事業では68百万円、生産機械事業では1百万円と各セグメントにおいて増益となりました。

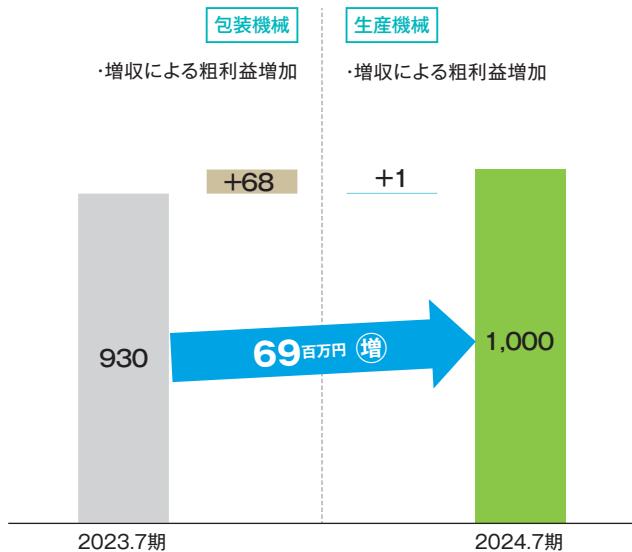
売上高 増減要因

(単位:百万円)



営業利益 増減要因

(単位:百万円)



第7次中期経営計画の取り組み状況

2024年7月期よりはじまった第7次中期経営計画(2024年7月期~2026年7月期)では「飛躍的成長に向けたグローバル展開の加速と事業領域の拡大を目指す」という基本戦略をもとに取り組みを行っています。

「顧客ニーズへの対応力強化と課題解決型営業の実践」を販売戦略の中心として、国内市場では主力商品のさらなる拡販により安定的な収益を確保しつつ、ワンストップで応えるソリューションビジネスの拡大、省人化や環境配慮への対応を進めるとともに、グローバル市場においては、3極(中華圏・欧米・ASEAN)での販売体制を強化することでグローバル市場売上高比率40%以上の達成に向けて取り組んでまいりました。

国内市場において、包装機械事業では、主力商品であるメカトロハイスペック包装機を中心とした給袋自動包装機の販売実績が増加したことにより国内市場の売上高は前期から増収となりました。生産機械事業では、プラント付帯設備や周辺装置の販売実績が増加したことにより国内市場の売上高は前期から増収となりました。

国内市場は前期より増収という結果となりましたが、受注残高は前期末に比べ減少しており、主力商品のさらなる拡販により受注を獲得することで安定的収益の確保に努めてまいります。

海外事業においてはグローバル市場の売上高比率40%以上を目指して、海外での販売体制の強化を進めてまいりましたが、2024年7月期年間のグローバル市場売上高比率は28.7%となり、目標とした40%以上の達成となりませんでした。引き続き

当社グループの重要課題として、第7次中計においては、数値目標を達成できるよう取り組みを強化してまいります。

2025年7月期の見通し

2025年7月期の業績見通しについては売上高10,000百万円(前期比1.5%増)、営業利益865百万円(前期比13.5%減)、経常利益870百万円(前期比14.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益610百万円(前期比15.4%減)を予定しています。

売上高につきましては、受注残高は前年から減少しているものの、国内外での積極的な販売活動の展開による受注確保や受注単価増を計画していることから、前期から増収を見込んでおります。

利益については、開発関連投資、人的資本への投資強化による販売費及び一般管理費の増加を想定していることから、前期から減益を見込んでおります。

株主の皆様へのメッセージ

2024年7月期の配当金につきましては、2023年8月から始まる第7次中期経営計画より、DOEの目安を2%から3%に引き上げております。

当期の配当金につきましては、期末配当金を当初予定の55円から10円増配し、1株当たり65円とし、中間配当金1株あたり35円と合わせまして年間配当金は1株当たり100円となります。2025年7月期については、1株当たり年間配当金110円を予定しています。

当社は食品、医薬品を安全・確実に包装する技術を通じてより大きな社会的貢献を果たせるよう、一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性の維持・向上に努めていきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社への継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

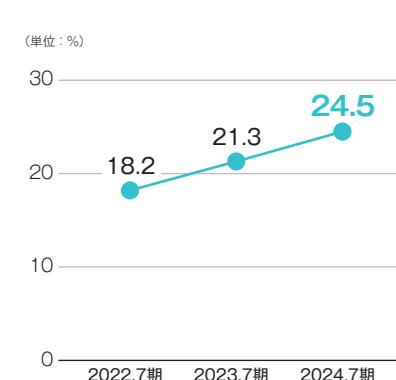
株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、連結配当性向30%または連結純資産配当率(DOE)3%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。

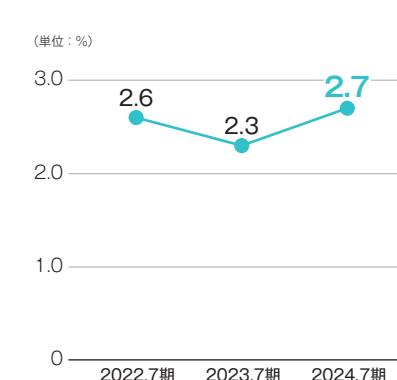
1株当たり配当金



配当性向



純資産配当率(DOE)



●●● 人的資本に関する当社の取り組み

当社では、性別や年齢、国籍等に囚われない多様性を尊重した運営を行い、社員一人ひとりが能力を最大限発揮し、成長できる職場環境づくりを行うべく人的資本への投資を続けております。

人材の育成



教育体系及びキャリアパスを定め、新入社員、若手、中堅、管理職向けの階層別の研修を実施しております。職務の専門性を高めるために、包装ビジネススキル研修、CAD作図講習、技術研修、各種キャリア開発セミナー、包装学校（日本包装機械工業会が運営する研修機関）の受講などの職務別研修にも力を入れております。また、資格取得や英会話教育支援といった自己啓発支援も強化しております。

人材の多様性



多様化している顧客ニーズに対応するためには、多種多様な経験や視点を持つ人材が必要です。新卒採用、キャリア採用については、国籍・性別問わず、当社で活躍できる人材を採用しております。外国籍人材につきましては、技術系人材を中心に育成・採用し、多くのお客様に高度な技術サービスを提供しております。

社内環境整備



社員一人ひとりが能力を最大限発揮できるように、上記の人材育成に力を入れることは勿論、2025年8月導入に向けた人事制度の改定に着手しております。具体的には、職能資格制度から役割等級制度へ移行し、経験を重視していた評価制度から能力を発揮することを重視する評価制度に移行させ、適切なフィードバックを行うことにより、従業員の成長や業務改善を促進させ人材活性化を図るものです。また、社内コミュニケーションを活性化させるためのイベントや全国宿泊施設・レジャー・ショッピング・グルメ等の割引利用、社員食堂を完備し昼食代を補助するなど福利厚生充実を図っております。

新任社外取締役のご紹介

井上 理津子よりメッセージ

Ritsuko Inoue



Q1 ゼネラルパッカーグループの印象は如何ですか？

A 第一印象は、「誠実」で「オープン」な企業風土という印象を受けました。また、お会いした社員の方は、どなたからも、仕事に対する静かな自信と確かな技術に裏付けされた誇りが伝わってきました。当社は増収増益で健全な経営を維持していますが、これは社員全員で支えているからと感じました。

父がエンジニアだったことで、工場に隣接した社宅で幼少時代（～6歳迄）を過ごしました。その背景から、工場の音や匂い等の雰囲気が非常に懐かしく感じ、ノスタルジックな気持ちになりました。

Q2 これまでのご経歴を踏まえ、コーポレート・ガバナンス強化にどのような貢献を考えておられますか？

A 取締役ならびに監査等委員への女性起用は同質性から脱却し、異質性（個の特異性や多様性を尊重する考え方）への転換、当社が多様性の確保や監督機能の一層の強化を意図したものと理解しております。その当事者として、まずは会社の方々との対話を通じて事業への理解を深めていきたいと考えています。その上で、業務執行から独立した立場で、当社との接点を通じて何らかの問題を発見した時や、違和感を覚えた時には、遠慮せず、率直に発言、行動することを心がけたいと考えております。初の女性取締役ということで、会社にとって大事な決議事項に異質性（多様性）が

加わることで、議論が活発化し、相互理解も深まり、さらに透明性が増すものと考えます。

コーポレート・ガバナンス強化に対しましても、ESGへの対応等、社会課題の解決と、会社の持続的な成長と企業価値の向上とのバランスを考慮し、中長期的な経営目標と整合的な水準となっているか、過去の経験等を踏まえ柔軟に考え、助言・提言をまいります。

Q3 コーポレート・ガバナンスを向上させるために、ご要望などがあればお願いします。

A 社外取締役ではありますが、コーポレート・ガバナンスの執行状況を確認するために社員の方々とのコミュニケーションを多く持ちたいと考えていますので、そのような機会をつくっていただきたいと思っています。

Q4 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A この度の株主総会でご選任いただき、大変光栄に思います。株主の皆様が当社に何を期待されているか、そのニーズをしっかりと受け止められるよう情報の収集とインプットに努め、取締役会等で発信してまいりたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いたします。

【経歴】

1985年 4月 埼玉玉銀行（現・㈱りそな銀行）入行
 2008年 4月 ㈱りそな銀行茗荷谷支店お客さまサービス部長
 2011年10月 同行西葛西支店お客さまサービス部長
 2014年 4月 同行行徳支店長
 2016年 4月 同行東京中央支店営業第五部長

2018年10月 りそなビジネスサービス㈱人事部ダイバーシティ推進室長
 2019年 4月 同社執行役員人事部副担当兼ダイバーシティ推進室長
 2021年 4月 同社執行役員ダイバーシティ推進室担当兼人財育成室担当
 2022年 4月 同社執行役員内部監査部担当
 2024年 6月 AGS㈱社外取締役（現任）
 2024年 6月 フルハシEPO㈱社外取締役（現任）

経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限の緩和により、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、原材料・エネルギー価格の高騰や急激な為替変動に伴う物価上昇の影響などにより、先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは「グループ一体での飛躍的成長に向けた基盤整備の時期」と位置づけた第7次中期経営計画（2024年7月期～2026年7月期）を策定し、グローバル展開の加速と事業領域の拡大を重要課題として基本戦略を推進してまいりました。

当連結会計年度における売上高は、包装機械事業・生産機械事業ともに顧客の設備投資需要が堅調に推移したことに伴い、前連結

会計年度に比べ799百万円の増収となり、過去最高の売上高となりました。一方で利益につきましては、原材料・エネルギー価格の高騰に伴う仕入価格の上昇により売上総利益率が前連結会計年度を下回ったものの、増収効果により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも前連結会計年度に比べ増益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は9,853百万円（前期比8.8%増）、営業利益は1,000百万円（前期比7.5%増）、経常利益は1,019百万円（前期比8.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は721百万円（前期比8.4%増）となりました。

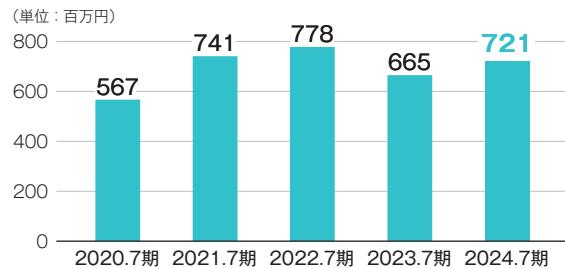
セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

包装機械事業は、売上高は8,541百万円、営業利益は952百万円となりました。また、生産機械事業は、売上高は1,324百万円、営業利益は47百万円となりました。

売上高



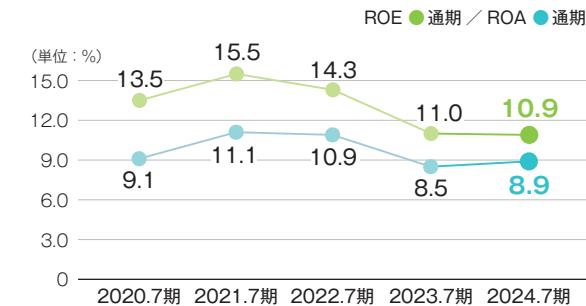
親会社株主に帰属する当期純利益



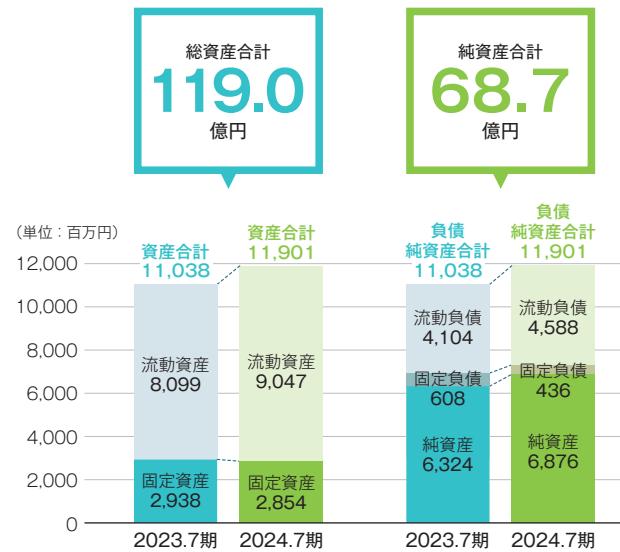
経常利益／売上高経常利益率



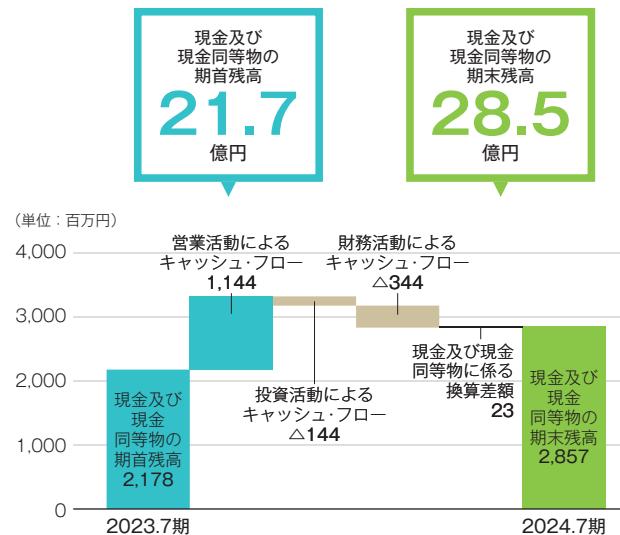
ROE／ROA



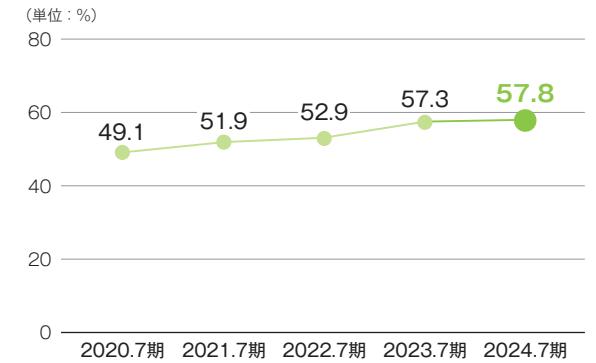
財務状況



キャッシュ・フローの推移



自己資本比率



財務分析

当連結会計年度末における資産合計が増加した主な要因は、棚卸資産が89百万円、無形固定資産が70百万円、有形固定資産が41百万円、それぞれ減少したものの、現金及び預金が778百万円、売上債権及びファクタリング方式により譲渡した売上債権の未収額の合計額が252百万円、それぞれ増加したことです。負債合計が増加した主な要因は、長期借入金が増加したものの、仕入債務が242百万円、前受金が173百万円それぞれ増加したことです。純資産合計が増加した主な要因は、利益剰余金568百万円の増加であります。

キャッシュ・フロー分析

営業活動の結果得られた資金は1,144百万円（前期は311百万円の使用）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益1,008百万円、仕入債務の増加額229百万円等であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額257百万円、売上債権の増加額230百万円等です。投資活動の結果使用した資金は144百万円（前期比67.2%増）となりました。支出の主な内訳は、定期預金の純増額100百万円、有形固定資産の取得による支出30百万円等です。財務活動の結果使用した資金は344百万円（前期比266.9%増）となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額152百万円、長期借入金の返済による支出146百万円、自己株式取得による支出45百万円等です。

包装機械

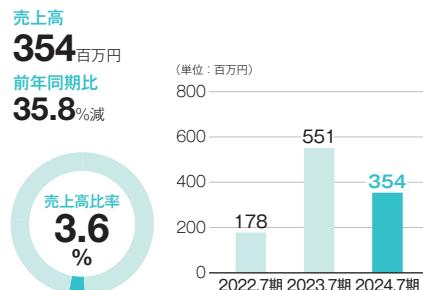
国内顧客への自動包装機及び保守サービスの販売実績が増加したことにより、売上高は8,541百万円(前期比9.5%増)となりました。利益につきましては、原材料・エネルギー価格の高騰に伴う仕入価格の上昇により売上総利益率が低下したものの、増収効果により、営業利益は952百万円(前期比7.7%増)となりました。



給袋自動包装機(ガス充填自動包装機含む)



製袋自動包装機



包装関連機器等



生産機械

プラントの販売実績が増加したことにより、売上高は1,324百万円(前期比5.8%増)となりました。利益につきましては、低採算案件の影響により売上総利益率が低下したものの、増収効果により、営業利益は47百万円(前期比2.5%増)となりました。



機械受注高



エンドユーザー国内・海外売上高(包装機械・生産機械合計)



会社概要

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	1961年12月
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売、食品製菓機械の製造・販売
従業員数	208名(連結) 168名(単体)
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地 TEL.(0568)23-3111(代) FAX.(0568)22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-8 KDX神田北口ビル4F TEL.(03)3256-3891(代) FAX.(03)3256-3893
子会社	オサ機械株式会社 蘇州日技通用包装机械有限公司 General Packer America Corporation
関連会社	錦通日技包装科技(江蘇)有限公司

(2024年7月31日現在)

役員

代表取締役社長	牧野 研二
常務取締役	水野 智之
取締役	安藤 正行
取締役	塚本 真也 オサ機械(株) 取締役会長
取締役	杉田 篤紀 オサ機械(株) 代表取締役
社外取締役(監査等委員)	久野 浩介
社外取締役(監査等委員)	村橋 泰志
社外取締役(監査等委員)	浅井 一郎
社外取締役(監査等委員)	森田 卓寿
社外取締役(監査等委員)	井上 理津子

(2024年10月25日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	5,600,000株
発行済株式総数	1,798,800株
株主数	803名

(2024年7月31日現在)

大株主

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社FAMS	270,000	15.04
ゼネラルパッカー従業員持株会	245,000	13.65
株式会社りそな銀行	78,400	4.37
田中 かな	71,200	3.97
MSIP CLIENT SECURITIES	70,600	3.93
ゼネラルパッカー取引先持株会	63,500	3.54
梅森 輝信	53,700	2.99
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	51,654	2.88
島末 孝法	39,200	2.18
高野 季久美	33,300	1.86

(2024年7月31日現在)

株主数構成比



個人・その他	748名	93.2%
その他法人	27名	3.4%
証券会社	18名	2.2%
外国人	6名	0.7%
金融機関	3名	0.4%
自己名義	1名	0.1%

株式数構成比



個人・その他	1,205,270株	67.0%
その他法人	368,590株	20.5%
金融機関	131,354株	7.3%
外国人	73,400株	4.1%
証券会社	18,637株	1.0%
自己名義	1,549株	0.1%

